

# ご挨拶

日本教育会館  
館長 島 修身

4月より日本教育会館館長に就任いたしました。会館の公益事業の一つである相談室の活動、その意義と重要性を認識しているところです。

本来、相談件数は少ないほうが良いのかもしれませんが、社会をとりまく環境の変化、複雑化に伴い、親も子ども教職員も様々な悩みや相談事を抱えておられるのが現状です。

先日、退任・就任の挨拶状を出したところ、かつての教え子から電話がありました。懐かしくつい長電話になってしまいましたが、子どもが高校生になり、親のいう事を聞かない、何を考えているのかわからない、という話になりました。どこにでもある話ですが、「困ったものだ」と済まされない当事者にとっては大問題で

す。深刻な様子ではなく安心でしたが、「教育会館で相談を受けているよ」というと、「いよいよになったらお願いします」と話しておりました。

深刻な状態になる前に、悩みや相談事を話し、一緒に考えてくれるところを知っていることは意味のあることだと思います。相談室の紹介リーフレットをリニューアルしました。ホームページを見て相談されてくる方も増えています。相談室の存在を多くの方に知っていただくためのアクセス環境の整備と相談業務の拡充にとりくんでまいります。引き続きご理解とご協力を願いたします。

## 運営委員の紹介

委員一同  
全力で取り組んで  
まいります。  
ご期待ください。

日本教職員組合  
中央執行副委員長 高橋 睦子

日教組に来て、中央執行委員として教文局で2年間、その後副委員長となって3年目の通算5年目になります。学校現場から離れたところにいますが、「現場主義」をモットーに仕事をしたいと思います。学校現場では、小学校の教員をして子どもたち、教職員、保護者の方々から本当に多くのことを学びました。この経験は自分にとってかけがいのないものとなっています。「教育とは、希望を語ること」と先輩から学んだことが、自分の教育活動の基本になりました。相談員の方々とも協力しながら、運営に携わっていきます。

日本教職員組合  
教文局次長 豊福 明子

4月より教文局で教育改革を担当しています。3月までは福岡県教組で教育情宣部執行委員として4年間、教育新聞やチラシ、CM製作などの情宣活動に取り組んで来ました。

また、小学校現場にいたときは「子どもとつながる」、「親とつながる」を基に実践して来ました。先日、中学生の子から「行きたくない高校を親が勧めるので先生話を聞いてほしい」と高校受験の相談を受けました。子どもたちは実にさまざまな悩みを抱えています。閉塞的な世の中に小さな光を見つげられる場所として、教育相談室の運営をめざしたいと思います。

国民教育文化総合研究所  
石井 小夜子

わたしも東京弁護士会で「子どもの人権110番」という電話相談を担当している。ここに相談にくるのは、親や子どもたちで、教職員からはめったにない。子どもからの相談は「いじめ」が圧倒的。「どうしたらよだろうね」と一緒に考えるのだが、堂々巡りもしばしば。「信頼できる先生はいないかなあ?」と言ってみるが、「うーん」となってしまう。どうやら一度は相談したことがあるらしいのだが、「気にしないで頑張ればいよ」で終わったり、「あなたも悪いところがある」など言われたらしい。親からも似たような返答。一緒に考えてくれるおとなが傍にいればもう少し救われると思うのだが・・・。

日本教職員組合  
中央執行委員 兼事務職員部長 四牟田 修三

4月より中央執行委員兼事務職員部長として着任しました。3月までは、大阪市の矢田西中学校の学校事務職員として事務室で勤務し、着任の直前まで事務室にやってくる中学生と体育大会やクラブ活動に熱中していました。

しかしながら、社会の影響は子どもたちにも進行し、進路変更を余儀なくされる生徒もいます。このようなことを考えると、教育のよりよい運営をめざして微力ではありますが頑張りたいと思います。

日本教育会館  
事務局長 井上 久義

相談室の運営委員として2年目になります。公益目的事業の一環として、相談室を充実するため、ホームページの刷新、広報などを通じ、多くの方々に相談室を知っていただけるよう努力致します。